

# 令和4年度 学校評価 総括評価表

徳島県立徳島視覚支援学校

## 学校経営方針

### 1 徳島県教育の基本方針

「徳島ならではの」教育により、大きな夢や高い目標をもって、未知の世界に果敢に挑戦する、夢と志あふれる「人財」の育成を目指します。

### 2 徳島視覚支援学校の使命

徳島視覚支援学校は徳島聴覚支援学校と同じ校舎内に独立して併置する全国でも類のない学校である。両校が連携・協働し、「幼児児童生徒の夢と希望につながる保育・教育」を行うとともに、県内唯一の視覚障がい教育を担う学校としての役割を果たし、「共生社会の形成につながる特別支援教育」を推進する。

### 3 目指す学校像

- (1) 幼児児童生徒の人権を尊重し、一人一人を大切にすることを学校におけるすべての教育活動をととして行う学校
- (2) 視覚障がいや多様な障がいのある幼児児童生徒一人一人の教育的ニーズに応じた適切な指導及び必要な支援ができる学校
- (3) 視覚障がいの専門性を校内外で発揮できる学校

### 4 本年度の重点目標

- (1) 幼児児童生徒の障がいの状況や特性に配慮した分かりやすい授業、学校行事、生徒指導、生活指導などを実践します。  
・ICTを効果的に活用する取組を進め、保護者や関係機関との連携にも活用します。  
・個々の幼児児童生徒に適した家庭学習についての工夫を進めます。
- (2) 幼児児童生徒の可能性を見据え、保護者や関係機関と進路情報を共有するなどの連携を図り、一人一人の発達段階や生活年齢に即したキャリア教育を推進します。
- (3) 学校全体で教育相談に対応するなどして、地域における視覚障がい等に関するセンター的機能と理解啓発をさらに推進します。
- (4) 地域と連携した取組、中学校等への訪問などにより、本校の教育に関する周知活動の充実を図ります。

重点目標(2)	幼児児童生徒の可能性を見据え、保護者や関係機関と進路情報を共有するなどの連携を図り、一人一人の発達段階や生活年齢に即したキャリア教育を推進します。				
具体的な活動計画	評価指標	評価		学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策(案)
		評価指標による達成度及び活動計画の実施状況	総合評価(評定)	学校関係者の意見	
学部の目標 課の目標 寄宿舎の目標	幼児が自分の身の回りのことを自分でしようとする意欲を高める保育を実践します。				
幼稚園	<ul style="list-style-type: none"> <li>・食事に関することや衣服の着脱、荷物の片づけ等、自分のことを自分でしようとする保育活動を実践する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学部研修や学部会を活用して、年間5回以上ケース会を実施する。</li> <li>・活動中の動画や写真を用いて、支援方法や手立てについて共通理解を図る。</li> <li>・幼児に関わる関係機関への訪問や、電話での情報共有を行い、連携を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学部研修や学部会を活用して幼児の様子や目標としたいこと等について話し合い、年間8回、ケース会を実施した。</li> <li>・タブレット端末で活動の様子を撮影し、動画や写真を見ながら支援方法や手立てについて話し合った。</li> <li>・幼児が通園している施設の見学に行ったり、電話で情報共有をしたりして、積極的に連携を図った。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・評価には、客観的な指標も必要であるが、数字には表れないエピソードも記載してほしい。</li> <li>・次年度は、幼児1名が在籍予定である。教員の支援過多とならないようにし、幼児自身が興味関心を持って遊んだり、遊びの中で気づいたりすることができるような環境設定や、教材・遊びの提示方法等の共通理解が必要である。</li> </ul>
重点目標(1)	幼児児童生徒の障がいの状況や特性に配慮した分かりやすい授業、学校行事、生徒指導、生活指導などを実践します。				
具体的な活動計画	評価指標	評価		学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策(案)
		評価指標による達成度及び活動計画の実施状況	総合評価(評定)	学校関係者の意見	
学部の目標	児童の意欲的な教育活動につなげるための、効果的なICT活用に取り組む。				
小学部	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ICT機器を活用した授業実践及び家庭や関係機関との連携についての効果的な活用方法を検討する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童の実態に応じたICT機器を活用した取組を各学級で1つ以上設定する。</li> <li>・学部内で各学級の取組についてのケース会を行う。(3ケース以上)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各学級でICT機器を活用し①入院及び療養中の児童に対する定期的なオンライン授業②児童の主体的な活動としての朝の会の進行③自立活動で目と手の協応動作の向上、因果関係の気づき等につなげるための学習を設定し取り組んだ。また④児童の普段の学習の様子等を家庭や外部講師コンサルテーション時に見せ、共通理解や外部講師の指導助言へ生かした。</li> <li>・上記①～③の取り組みについて、学部内でケース会を行ったが、効果的な活用方法の検討までには至らなかった。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・評価には、客観的な指標も必要であるが、数字には表れないエピソードも記載してほしい。</li> <li>・入院中の児童に対する取組が充実したことは非常に成果を感じる。</li> <li>・児童の実態やめざす姿像に応じて、今後もICT機器の活用を継続及び発展させていきたい。そのために、今年度、どの教員も校内でのICT機器に関する研修会に参加したり、外部の研修会で他県の盲学校の取り組みを聞いたりしたので、その研修で得たことを授業実践に取り入れ、情報交換をしたりしながら、効果的な活用に繋げていきたい。</li> </ul>

重点目標(1)	幼児児童生徒の障がいの状況や特性に配慮した分かりやすい授業、学校行事、生徒指導、生活指導などを実践します。				
具体的な活動計画	評価指標	評価		学校関係者評価	
		評価指標による達成度 及び活動計画の実施状況	総合評価 (評定)	学校関係者の意見	
学部の目標	・ICT機器やコミュニケーション代替機器などを活用し、生徒が主体的に活動できる授業に取り組む。				
中学部	<p>・生徒の実態に応じたICT機器やコミュニケーション代替機器などを用い、自己選択や意思伝達しながら主体的に学べる授業作りに取り組む。</p>	<p>①タブレットや視線入力装置、スイッチ類を用いた実践について、学期に2回以上(3学期は1回以上)学部やクラス、授業担当で話し合いを行い、取組の共有と授業改善を行う。</p> <p>②年度末に、機器活用の取組の成果と改善点をまとめ、引き継ぎ資料を作成する。</p>	<p>①文化祭等の学校行事や各クラスでの授業におけるICT機器等を活用した取り組みについて、学期に3回ずつ話し合いを行った。検討後、iPadや視線入力装置、うごキングの設定を変更(タップによる画面変更範囲の拡張、スイッチ操作後の機器作動時間の延長)したり、生徒の興味関心に応じて教育版マイクラフト、ガレージバンド等のアプリを新しく導入したりする等、改善を図った。</p> <p>②今年度の学習の成果や改善点を、文章や写真、映像等でまとめ、引き継ぎ資料を作成した。</p>	<p>A</p>	<p>・評価には、客観的な指標も必要であるが、数字には表れないエピソードも記載してほしい。</p> <p>・ICTの活用は非常に有効である。更なる取組の広がりを期待する。</p> <p>①それぞれの教員のICT活用力が異なるため、互いに授業を参観し合ったり、専門的知識のある教員が、機器の操作方法について学部教員に伝達する等して、教員全体で専門性の向上に取り組む。また、次年度の新入生に関して、今年度中に担任から、学習状況についての情報共有を行い、実態に応じてコミュニケーション代替機器等を活用した授業を引き続き実践する。</p> <p>②今年度は学部内での取組であったが、他学部教員と実践を紹介し合う場を設ける。</p>

重点目標(1)	幼児児童生徒の障がいの状況や特性に配慮した分かりやすい授業、学校行事、生徒指導、生活指導などを実施します。				
具体的な活動計画	評価指標	評価		学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策(案)
		評価指標による達成度及び活動計画の実施状況	総合評価(評定)	学校関係者の意見	
学部の目標 課の目標 寄宿舎の目標	社会参加・自立をめざし、一人一人に応じた学力や体力の向上を図ります。				
高等部 普通科	<ul style="list-style-type: none"> <li>ICTを活用し、生徒一人一人の見え方や適性に配慮した授業・学校行事の実施に努める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒一人一人の見え方や適性に配慮できるように教材研究を行い、iPadやUDブラウザ、GSpeak等を授業・学校行事に活用する。</li> <li>iPadやUDブラウザ等を利用した家庭学習課題を定期的に課す。</li> <li>iPadを活用して学校での様子を動画撮影等したり、家庭での様子を記録してもらったりし、保護者と生徒の成長・課題を定期的に共有する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>スイッチを利用してiPad絵本のページをめくり絵本を聴くことができた。Gspeakで体育祭の競技上の注意を伝えたり音楽を入れて聴いたりできた。UDブラウザで適切な大きさの文字や図を使って学習する等活用できた。</li> <li>毎日、または週末に持ち帰り、家庭学習に利用できた。</li> <li>iPadを活用して学校と家庭で動画や写真、メモ機能を使って情報を共有することができた。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>評価には、客観的な指標も必要であるが、数字には表れないエピソードも記載してほしい。</li> <li>ICTの活用には、基礎学力の保障も課題となる。</li> <li>UDブラウザで書き込みや読み上げ機能を利用した活用を進める。</li> <li>生活の中で、ICT活用を進めていく。</li> </ul>
重点目標(2)	幼児児童生徒の可能性を見据え、保護者や関係機関と進路情報を共有するなどの連携を図り、一人一人の発達段階や生活年齢に即したキャリア教育を推進します。				
具体的な活動計画	評価指標	評価		学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策(案)
		評価指標による達成度及び活動計画の実施状況	総合評価(評定)	学校関係者の意見	
学部の目標 課の目標 寄宿舎の目標	職業生活に必要な基礎的技術の向上を図り、働く意欲を育てます。				
高等部 普通科	<ul style="list-style-type: none"> <li>定期的な作業dayや個々に応じた事業所の見学・就業体験を設定し、実施する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>施設見学・就業体験等、各生徒の希望進路の情報や指標等を得られる機会を1人1回以上設定する。</li> <li>個々の実態に応じた作業内容を設定し、月に1回程度、作業dayを設定する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各生徒の希望に応じて全員の就業体験を設定し、1人を除いて実施済みで新たな目標や課題を見出すことができた。2月下旬に最後の1人も就業体験を計画している。</li> <li>清掃や点字用紙リサイクル作品制作等、個々の実態に応じて作業内容を設定し、月に1度の作業dayに取り組んだ。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>外部に向けた情報の発信も大切にして欲しい。</li> <li>今年度の課題に引き続き取り組む。卒業年度を迎える生徒がいるので、関係機関との連携を図り、保護者とも密に情報交換する。</li> </ul>

重点目標(1)	幼児児童生徒の障がいの状況や特性に配慮した分かりやすい授業、学校行事、生徒指導、生活指導などを実践します。					
具体的な活動計画	評価指標	評価		学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策(案)	
		評価指標による達成度及び活動計画の実施状況	総合評価(評定)	学校関係者の意見		
学部の目標 課の目標 寄宿舎の目標	生徒の障がいの状況や特性に応じて、ICTを活用した授業や活用方法を紹介することで、学習がしやすくなった、生活がしやすくなったとの意見が出る。					
職業学科	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒の障がいの状況に応じたICT機器の紹介を行い、ICTを使用するメリットを理解できるよう伝えるとともに、トラブル対応方法も身につけられるよう支援する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒に提示するICTの研修を1回以上行い、生徒の質問に対応でき得る知識を身に付ける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ICT機器で使用する資料を作成するための研修を2学期に1回、3学期に1回行い、生徒にとって適切な音声資料が作成できた。生徒に使用方法とメリットを説明したが、利用回数が少ないためトラブル対応自体が少ないが、支援することができている。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>評価には、客観的な指標も必要であるが、数字には表れないエピソードも記載してほしい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>必要なICT機器やスキルは生徒一人一人違うため、幅広い技術や技能が必要である。各生徒に応じた利用方法を支援していきたい。</li> </ul>
重点目標(4)	地域と連携した取組、中学校等への訪問などにより、本校の教育に関する周知活動の充実を図ります。					
具体的な活動計画	評価指標	評価		学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策(案)	
		評価指標による達成度及び活動計画の実施状況	総合評価(評定)	学校関係者の意見		
学部の目標 課の目標 寄宿舎の目標	地域住民や徳島聴覚支援学校と連携し「防災体験活動」を行うことで、地域とのつながりを深めると共に、本校に対する理解の推進を図る。					
涉外・安全課	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域の福祉避難所としての役割を果たすため、地域住民と徳島聴覚支援学校と共に、感染症対策をふまえた合同防災訓練を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>感染症対策をふまえた活動を実施する。</li> <li>学校に多くの人が避難する場合を想定し、地域の人がかかりやすくスムーズに避難できるように施設整備、避難経路を周知する。</li> <li>災害時に備え、新たに校内に備える物品や設備の検討をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>手指消毒・検温・換気等、感染症対策を徹底し、訓練を実施できた。</li> <li>地域の人と共に、災害時に入校するための鍵の場所、1階から屋上への避難経路、避難場所を確認できた。また参加者で感染症対策をふまえたテント設営案を話し合い、出た意見をもとにアリーナでテントの設営を行うことができた。</li> <li>自家発電用の発電機やガソリン、テント、屋上用スロープ等、必要な物品の確認ができた。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>評価には、客観的な指標も必要であるが、数字には表れないエピソードも記載してほしい。</li> <li>徳島聴覚支援学校との合同での取組の充実を期待している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「学校と地域との共助」という観点からも、障がい児・者への理解を深めていただけるように、今後も合同防災学習を継続し、交流を深めていきたい。</li> </ul>

重点目標(1)(4)	幼児児童生徒の障がいの状況や特性に配慮した分かりやすい授業、学校行事、生徒指導、生活指導などを実践する。地域と連携した取組、中学校等への訪問などにより、本校の教育に関する周知活動の充実を図る。				
具体的な活動計画	評価指標	評価		学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策(案)
		評価指標による達成度及び活動計画の実施状況	総合評価(評定)	学校関係者の意見	
学部の目標 課の目標 寄宿舎の目標	各学部・学科の教育課程の検討を通して、幼児児童生徒の発達段階に応じた授業作りにつなげられるようにする。オープンスクール等を通して、本校の教育についての周知活動を推進する。				
教務課	<ul style="list-style-type: none"> <li>・幼児児童生徒の発達段階に応じた授業実践を行えるよう、各学部・学科で令和5年度の教育課程について検討する。</li> <li>・他の課、学科等と連携してオープンスクールを計画し、本校の教育に関する周知活動を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①各学部・学科において教育課程についての検討会を学部会等の中で2回以上実施する。</li> <li>②来年度の教育課程や時間割編成に活かせるよう、年度末にアンケート等で意見を集約する。</li> <li>①パンフレット等の作成を行い、他の課、学科等と連携して地域や他校等へ配付する。</li> <li>②学生の参加しやすい夏期休業中に本校職業学科オープンスクールを2回計画する。</li> <li>③コロナ感染症防止対策を行い、徳島聴覚支援学校と連携して合同でのオープンスクールを実施する。</li> <li>④実施後、改善点等を課内で検討し、来年度に活かせるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①小学部・中学部・高等部普通科では、それぞれで次年度在籍予定児童生徒の教育課程の検討を行った。進学予定の児童については、学部を超えて連携して児童に合った教育課程を検討し、教員間で情報共有を行った。また、職業学科では、本科手技療法科の教育課程について検討し、重複して学習している内容についての精選を行った。その結果、国家試験に向けての学習時間をより確保できる教育課程となった。</li> <li>②2月中にアンケートを実施し、各学部でとりまとめて次年度の教育課程や時間割編成に活かす予定である。</li> <li>①パンフレットを作成し、サポート課や学科と連携して教育相談の生徒や中学校・高等学校へパンフレットを配付した。</li> <li>②職業学科のオープンスクールを2回計画し、それぞれに参加申込みがあった。内1回はキャンセルとなり、1回の実施となったが、申込者が都合に合った参加日を選択することができた。また、設定日以外にも見学に2名の来校があった。</li> <li>③コロナ感染症防止対策として、オープンスクールへの参観を、1人1時間の事前申込制とした。また、申込みの参観時間が重ならないよう、徳島聴覚支援学校とも相談し時間調整を行うことで、密をさけて実施することができた。</li> <li>④事前申込後のオープンスクール欠席について、連絡をいただくようにすることが改善点とてあがった。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・評価には、客観的な指標も必要であるが、数字には表れないエピソードも記載してほしい。</li> <li>・外部に向けた情報の発信も大切にして欲しい。</li> <li>・次年度も、幼児児童生徒一人ひとりに応じた教育課程の検討を各学部で実施するとともに、進学後の教育課程については、学部を超えた教員間の連携が必要となってくる。他学部の教育課程についても知る機会を設けることが検討事項として挙げられる。</li> <li>・引き続き、校内の課や学科に加えて徳島聴覚支援学校とも連携してオープンスクールを実施し、本校の教育についての周知活動を行う。また、ホームページ等も活用しながら、周知活動を推進する。</li> </ul>

重点目標(1)		幼児児童生徒の障がいの状況や特性に配慮した分かりやすい授業、学校行事、生徒指導、生活指導などを実践する。				
具体的な活動計画	評価指標	評価		学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策(案)	
		評価指標による達成度及び活動計画の実施状況	総合評価(評定)	学校関係者の意見		
学部の目標 課の目標 寄宿舎の目標	ICTを効果的に活用し、障がい種別や心理状態の異なる、多様な幼児児童生徒の在籍に対応した学校行事を実施する。					
生徒活動課	<ul style="list-style-type: none"> <li>・例年実施されている生徒活動課担当行事について、実施方法や内容について検討し、さらなる改革を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体育祭、文化祭等の大きな行事については検討会を設け、各学部や幼児児童生徒の実態に則した実施ができるようにする。</li> <li>・実態が大きく異なる幼児児童生徒が、それぞれに合った形態で共に行事を行うことができるよう検討する。</li> <li>・各行事の中で、オンラインで実施した方が良い行事はオンラインで実施したり、ICTを積極的に活用したりする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体育祭は学部長との話し合い、管理職との検討会を設けた。文化祭は立案前に学部ごとに検討会を設け、学部の要望や意見を反映するよう努めた。</li> <li>・体育祭では、競技数の見直しを行ったり体育等の授業で取り組んでいる内容を競技に反映したりすることで、多様な実態の児童生徒と一緒に参加できるようにした。</li> <li>・生徒の実態や感染症の感染状況に配慮して行事を行った。文化祭の表現・バザーの部は保護者に公開、展示の部はオンラインで実施し、後日作品展示を行った。その他、1つの行事をオンラインで行い、感染症が落ち着いた時期には聴覚支援学校と合同で2つの行事を実施することができた。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・評価には、客観的な指標も必要であるが、数字には表れないエピソードも記載してほしい。</li> <li>・学校内外の行事等の充実を図ることで、子ども達にうれしさや誇らしさを感じる場を地道に積み上げてもらいたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルス感染症に対する対応が徐々に変わってきている中、従来の実施方法に戻していくかを考える時期にある。管理職や学部長と相談しながら早めに準備を進めていきたい。</li> <li>・個人情報提供を可としない家庭および児童生徒が増えており、大会等に参加を促すことが困難な状況が続いているが、参加方法について検討していく。</li> </ul>

重点目標(1)	幼児児童生徒の障がいの状況や特性に配慮した分かりやすい授業、学校行事、生徒指導、生活指導などを実践します。					
具体的な活動計画	評価指標	評価		学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策(案)	
		評価指標による達成度及び活動計画の実施状況	総合評価(評定)	学校関係者の意見		
学部の目標 課の目標 寄宿舎の目標	幼児児童生徒の発達段階に応じた人権教育の充実を図る。					
人権・キャリア教育課	・徳島視覚支援学校と徳島聴覚支援学校合同で人権教育の公開授業を行うことで、合理的配慮について学び、幼児児童生徒が互いに認め合う保育・教育につなげる。	・11月に行われる徳島市佐那河内村人権教育研究大会での公開授業において、80%以上の指導案に合理的配慮を明記している。	・11月30日に行われた徳島市・佐那河内村人権教育研究大会での公開授業の指導案については合理的配慮を指導上の留意点などに波線で記すことがすべての指導案においてできた。	A	・評価には、客観的な指標も必要であるが、数字には表れないエピソードも記載してほしい。	・合理的配慮については、イントラネットの掲示板や合理的配慮の自己評価を実施することにより、各教員の意識も高まり、公開授業の指導案にも明記することができた。今後も上記のイントラの活用、自己評価を実施していきたい。
重点目標(2)	幼児児童生徒の可能性を見据え、保護者や関係機関と進路情報を共有するなどの連携を図り、一人一人の発達段階や生活年齢に即したキャリア教育を推進します。					
具体的な活動計画	評価指標	評価		学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策(案)	
		評価指標による達成度及び活動計画の実施状況	総合評価(評定)	学校関係者の意見		
学部の目標 課の目標 寄宿舎の目標	幼児児童生徒のライフステージや発達段階、適性に応じたキャリア教育及び進路指導の充実を図る。					
人権・キャリア教育課	・幼稚部から高等部の幼児児童生徒の社会的・職業的自立に向け、キャリア教育全体計画をもとに、それぞれの学部学科で実践する。	・幼稚部・小学部は、個別ファイルを活用して家庭の協力を得て、チャレンジウィークを実施する。80%以上の実施率を得る。	・懇談等でお手伝いの内容や課題を話し合い、夏期休業中に家庭と連携してチャレンジウィーク(お手伝い活動)に取り組んだ。幼稚部・小学部では、評価表の提出が89%であった。	A	・個別の教育とともに社会とのつながりを大切にしたい。	・チャレンジウィークについては、次年度も家庭と連携をして、ステップアップやチャレンジをしていけるようにする。 ・職場見学や就業体験については、引き続き施設や事業所との調整や感染症対策を徹底して、関係機関や保護者と連携して実施をしていく。 ・キャリアパスポートの作成では、個々に学習活動を振り返り、文化祭で発表することができた。今後も就業体験も含め、報告や発表の機会を設けていきたい。
		・中学部は、進路希望調査の実施と併せて、職場見学を行う。	・進路希望調査を5月に行い、希望状況と懇談等で希望する見学先を調整して、一人一回ずつ職場見学(施設見学)を実施した。			
		・普通科は、就業体験や学習活動の振り返りを行い、就業体験報告会の実施、キャリアパスポートの作成をする。	・就業体験や学習活動の振り返りを行い、キャリアパスポートを作成した。キャリアパスポート報告会は2月に、就業体験報告会は3月に実施予定である。			

		・職業学科は、生徒のキャリア評価を行い、評価が年2回の評価で合計の評価点数が上がった生徒が全体の80%になる。	・高等部手技療法科・鍼灸手技療法科では、キャリア評価を6月と12月に行った。全ての生徒で評価が向上した。		・職業学科では、コロナウィルス感染症の影響で見学等が中止となっていた。次年度は、治療院見学や校外臨床実習等が再開できるように感染状況を鑑みながら取
重点目標(3)	学校全体で教育相談に対応するなどして、地域における視覚障がい等に関するセンター的機能と理解啓発をさらに推進します。				
具体的な活動計画	評価指標	評価 評価指標による達成度 及び活動計画の実施状況		学校関係者評価 学校関係者の意見	次年度への課題と 今後の改善方策(案)
課の目標	学校全体で教育相談に対応するなどして、地域における視覚障がい等に関するセンター的機能と理解啓発をさらに推進します。				
サポート課	・サポート課の相談担当者とその他の教員が複数で教育相談に対応することで、教育相談における支援をさらに充実させる。	・巡回相談や来校相談で請け負った相談内容について、それに関する専門性をもった教員と事前事後にケース検討をしたり、実際の相談と一緒に対応したりするケースを、相談数の70%以上とする。	・事前準備、相談対応、関係機関とのやりとり、相談記録の共有など、すべての相談において複数の教員(サポート課員、学部長、視能訓練士、進路担当、情報機器担当など)が関わった。	A	・センター的機能の充実を目指して欲しい。  ・複数で対応する相談件数を増やすことはできたが、対応する教員はまだ少ない。個人情報の扱いに留意しつつ、さらに多くの教員が相談に関わることができるように積極的に発信していきたい。
	・県下全域の園や学校に対し、本校のセンター的機能についての啓発活動を行う。	・本校の相談活動(巡回相談、来校相談)と、児童生徒・職員・保護者に対する研修支援活動等について啓発するチラシを、県下全域の園や学校に送付する。	・全県下の学校にチラシを送付することはできなかったが、コーディネーターや巡回相談員などの教員や学生を対象とした研修会で、具体的な相談事例を紹介しながら啓発活動を行った。	B	・外部に向けた情報の発信も大切にして欲しい。  ・今年度、チラシの配布に至らなかったため、課の年間業務内容に啓発活動を組み込み、次年度5月にチラシの送付をする。

重点目標(1)	幼児児童生徒の障がいの状況や特性に配慮した分かりやすい授業、学校行事、生徒指導、生活指導などを実践します。					
具体的な活動計画	評価指標	評価		学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策(案)	
		評価指標による達成度及び活動計画の実施状況	総合評価(評定)	学校関係者の意見		
学部の目標 課の目標 寄宿舎の目標	「自ら考え、行動する力を！ ～見直してみよう いつもの授業～」をテーマとして、授業力向上に向けた研修を実施する。					
研究・情報課	<ul style="list-style-type: none"> <li>・幼児児童生徒の実態に応じた分かりやすい授業を実践するために、視覚障がい教育に関する研修や教員の「言葉」を大切に授業を実践し、専門性の向上を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①新転任者研修を実施する。</li> <li>②個別の教育支援計画・個別の指導計画の研修を実施する。</li> <li>③視覚障がい教育研修を実施する。</li> <li>④研究・公開授業の年間計画を作成する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・4月に新転任者研修(6回)及び個別の教育支援計画・個別の指導計画の研修を実施した。</li> <li>・視覚障がい教育研修実施計画を作成、実施(13回)した。</li> <li>・研究・公開授業の実施予定者を確認、年間計画を作成した。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・評価には、客観的な指標も必要であるが、数字には表れないエピソードも記載してほしい。</li> <li>・自己研鑽には、目標を決め全員で取り組むことが大切である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一人1台端末の活用が進むことに伴いICTに関する質問等が増えていることから、これまで培ってきた視覚障がい教育の専門性を踏まえつつ、ICTに関する研修及びマニュアル等の資料を充実することで、ICTスキルの底上げを図</li> </ul>
重点目標(1)	幼児児童生徒の障がいの状況や特性に配慮した分かりやすい授業、学校行事、生徒指導、生活指導などを実践する。 ・ICTを効果的に活用する取組を進め、保護者や関係機関との連携にも活用する。 ・個々の幼児児童生徒に適した家庭学習についての工夫を進める。					
具体的な活動計画	評価指標	評価		学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策(案)	
		評価指標による達成度及び活動計画の実施状況	総合評価(評定)	学校関係者の意見		
寄宿舎の目標	舎生の将来を見据え、障がいの特性や発達段階に応じた生活指導を通して、一人ひとりの可能性を伸ばす支援を図る。					
寄宿舎	<ul style="list-style-type: none"> <li>・舎生一人ひとりの実態や教育的ニーズを把握し、円滑な生活指導を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校と連携を図り、舎生の実態や支援方法等に関する寄宿舎研修を年間2回以上設け、寄宿舎指導員の専門性を高める。</li> <li>・連絡会等を通して定期的に舎生の実態を把握し、指導員間で支援指導の共通理解を図る。</li> <li>・ケース会や面談に年間7回以上参加し、学校や家庭との連携を深める。</li> <li>・寄宿舎で作成した個別の指導目標について、面談等を通して学級担任や保護者と共通理解を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校看護師やサポート課の教員を講師に招き、研修会を2回実施した。また聴覚と合同で寄宿舎での自主研修会を3回実施し、専門性の向上に努めた。</li> <li>・週1回程度、必要に応じて連絡会を実施し、指導員間で舎生の支援指導について共通理解を図った。</li> <li>・ケース会や面談に年間11回参加した。参加が難しい場合は、面談等の記録を情報共有した。</li> <li>・面談等を通して学級担任や保護者と共通理解を図り、個別の指導目標の作成や支援に活かした。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・評価には、客観的な指標も必要であるが、数字には表れないエピソードも記載してほしい。</li> <li>・寄宿舎での学びが、家庭での身辺自立につながっていることを実感できる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後も学校や保護者と連携を図り、舎生の実態把握を行うと共に、指導員間で統一した支援ができるように努めたい。</li> <li>・定期的に研修会を実施し、必要な知識や支援方法を習得することで、指導員の専門性の向上や生徒理解に努めたい。</li> </ul>